

漁を楽な方法で！

五島列島には溶岩が豊富に存在し、島中に見られる火成岩は、太古の姿を伝えているようです。鬼岳など最後の噴火が起きたのも、島が拓かれるずっと前のことです。このことから、島を拓いた先人たちは、島中にある黒い岩石にはよく慣れ親しんでいたことでしょう。多郎島で見られるパホイホイ溶岩は、複数の薄い層から成り、比較的ツヤがある硬い岩で構成されるという特徴を持っています。

原始的な楽しさ！

先人たちは、溶岩を使った独創的なアイデアを編み出しました。溶岩に覆われた海岸線が構成する入り江の浅瀬ならではの漁法です。まず、干潮時に小石で囲いを作ります。囲いは満潮時の水面の高さに調整します。潮が満ちると魚が囲いに入ります。漁師は待つだけです。潮が再び引くと魚は閉じ込められ、水が引いた囲いの中では、素手でも原始的な網や銚でも簡単に捕まえることができました。

富江の人々はこの漁を「すけ漁」と呼んでいました。挑戦してみたいという方には、近くのキャンプ場「さんさん富江キャンプ村」にて、「すけ漁」を体験する機会が提供されています。